

乳幼児死亡率改善のための研究

「SIDSの社会的問題点とそれらを考慮した啓蒙および家族のサポートシステムの確立に関する研究」

分担研究者；仁志田博司（東京女子医科大学 母子総合医療センター教授）

研究協力者；福井ステファニー、管家 裕（日本 SIDS 家族の会）

【研究要旨】

乳幼児突然死症候群（SIDS）は、病態解明および疫学調査などの医学的な面に加え、児を失った家族のサポートおよび育児という日常生活の中に本症の発生頻度を増減させる因子が含まれているところから、それらのリスク因子の啓蒙が重要であることが認識されるようになった。それらの活動においては、SIDS 家族の会が大きな役割を占めているところから、世界 24 ヶ国 26 団体の家族の会の状況を調査した。15 団体がすでに予防キャンペーンを行っており、うつ伏せ寝 100%、喫煙 88%、母乳栄養 62%、温度環境 33%および寝具 27%に関する注意がその中心であった。11 団体においては、パンフレットなどによる具体的な家族のサポートが実際に行われていた。

【目的】

乳幼児突然死症候群（SIDS）は、その医学的な面のみならず、その死亡が主に生活の場である家庭や保育所で発生するところから、家族への精神的なサポートが重要となる。その中心的な役割を果たしているのが、ピフレンダーと呼ばれる SIDS を経験した家族によるサポートである。さらに SIDS の発生頻度が育児環境によって大きく影響を受けるところから、リスク因子を広く知らせる SIDS の予防キャンペーンが重要となってくる。本研究は、それらの活動の中心となっている世界各国の SIDS 家族の会の活動を分析し、我が国における SIDS の発生予防に関するシステム作りおよび SIDS で家族を失った家族のサポートシステムを作る基礎データとすることを目的とした。

【研究方法】

日本 SIDS 家族の会を通じ、世界各国の家族の会からの組織図、パンフレット、活動状況などの情報を収

集し検討した。

【結果】

（1）1998 年現在、世界各国の SIDS 家族の会は、表に示す如く 24 ヶ国 26 団体（オーストラリアと英国が各 2 団体）に設立されており、うち 20 団体が既に SIDS 予防キャンペーンを開始していた。

（2）具体的な予防キャンペーンの内容を入手できたのは 15 団体で、うつ伏せ寝をやめる（15 団体 100%）、妊娠中および児の周囲での喫煙をやめる（13 団体 88%）、母乳栄養を勧める（10 団体 67%）、温度環境に気をつける（5 団体 33%）、その他の寝具に関する注意（4 団体 27%）であった。その他の寝具に関する注意では、頭部を寝具などで覆わない、ベッドの下方に児を寝かせるなどであった。

（3）予防キャンペーンによって各国で SIDS の発生頻度は著明に減少し、キャンペーンが有効であったことが示された。

(4)SIDSで児を失った家族の精神的なサポートに関し、パンフレットやその他の印刷物を作成し実質的な活動を行っている国は、オーストラリア、カナダ、フィンランド、フランス、アイルランド、ニュージーランド、ノルウェー、スイス、イギリス、アメリカ、日本などであった。

#### 【考察】

世界 SIDS 家族の会の資料を入手し検討したが、北米、西ヨーロッパ、オセアニアが中心であり、アジアは日本のみ、アフリカはジンバブへと南アフリカ、南アメリカはアルゼンチンのみで、東ヨーロッパからは数カ国から SIDS 研究者の個人的な立場から情報が寄せられている。パンフレットなどを作成し SIDS 予防キャンペーンを行っているのは 12 ヶ国であり、その全てにおいてうつ伏せ寝がリスク因子として挙げられていた。注目すべきは、スコットランドおよびフランスのパンフレットに母乳がリスク因子として記載されていないことであった。疫学的に両国で非母乳栄養がリスク因子として表れなかった結果であろう。SIDS 国際会議における疫学部門の専門医会議においてもこの点が取り上げられ、先進国において母乳が統計学リスク因子として現れなくとも、発展途上国においては明らかなリスクとなることが予想できることから、原則として非母乳栄養を SIDS のリスク因子として挙げるのが委員会の意見として採用されている。保温に関しては、半数以上のパンフレットで SIDS との関連が述べられているが、必ずしも暖めすぎではなく低体温もリスク因子であると述べている国もあった。文献的には、近年うつ伏せ寝が減少するにつれ、疫学的な検討から暖めすぎという項目が有為差をもたなくなってきたところから、リスク因子から除かれる傾向にある。赤ちゃんのベッドに関しても、イタリアおよびオーストラリアのパンフレットは、図入りでベッドの下の方に児を寝かせることを指示している。その理由は、児が動くことによって掛け布団の中に埋没することを防ぐためと考えられる。スコットラ

ンドおよびオーストラリアのパンフレットでは、睡眠時の児の頭を布で覆うことをリスク因子として挙げている。暖めすぎに加え、鼻腔や口を覆う可能性からであると考えられる。オーストラリアのパンフレット (Reduce the Risk of SIDS) は、イラストに加え極めて具体的に SIDS のリスク因子を多項目にわたって挙げている。それらを挙げてみると、「赤ちゃんを仰向けに寝せる、妊娠中および児のまわりでのタバコをやめる、赤ちゃんを熱すぎたり寒すぎたりしないようにする、母乳は赤ちゃんに良い、予防接種は非常に重要である、枕を使わない、赤ちゃんの頭を覆うものがないことに気をつける、赤ちゃんの足をベッドの下につける、ウォーターベッドや bean bag (豆あるいは豆のような小さなものが詰まったマットレスあるいはバッグ) を用いない、堅い綺麗なマットレスを用いる、掛け布団はしっかりとめる、キルトや柔らかいおもちゃなどをベッドのそばに置かない」であり、さらに「そのようなリスク因子が SIDS のリスクを減少させる、SIDS の原因はまだ誰もよく知らない、誰を責めてもいけない、ほとんどの赤ちゃんは SIDS で死ぬことはないということ覚えておくこと」のコメントに加え、SIDS のことを知りたい場合の連絡先として家族の会の住所が記載されている。米国の公衆衛生局 (US Public Health Service)、アメリカ小児科学会 (American Academy of Pediatrics) および SIDS 家族の会 (SIDS Alliance) が共同で出している SIDS 予防キャンペーンのパンフレット「Back to Sleep (仰向けに寝せる)」、「Reduce the risk of Sudden Infant Death Syndrome (SIDS)」のパンフレットには、仰向けに寝ることの重要性を記載し、付随して寝具 (Bedding) に関し堅いマットレスを用いる、フワフワした毛布は用いない、ウォーターベッド、シープスキン、枕、その他の柔らかい物は用いない、温度に関しては暖めないといけませんが暖めすぎはいけない、タバコに関しては赤ちゃんの周りでタバコを吸わない、母乳に関しては可能ならば母乳を考えるべきである、にとどまっている。その他、かかりつけの医者をも

ち、定期的に予防注射や診察を受けることおよび早期から定期的に妊婦健診を受けることが SIDS のリスクを減少させること、妊娠中にタバコ、アルコール、薬物を用いないことなどの重要性も記載されている。そして最後に、「子育てを楽しみなさい、ほとんどの子どもはこういう風にして元気になるのです、SIDS のことを心配して赤ちゃんを育てる楽しみを損ねてはいけません」と書かれている。

#### 【まとめおよび結論】

西側社会において SIDS の相対的重症度が増しているため主に西側社会が中心であるが、SIDS 家族の会がリスク因子の啓蒙による予防キャンペーンにおいて、使用な役割を果たしている。リスク因子に関しては、うつ伏せ寝、タバコはほとんどの国でリスク因子として挙げられているが、母乳は必ずしもリスク因子とされていない傾向がある。赤ちゃんの睡眠の環境、温度、ベッド、掛け布団などに関しても、国々によってその表現は多少異なるが、具体的な注意事項が挙げられている。SIDS の予防キャンペーンにおいて重要なことは、育児環境への配慮であり、その実状を知った家族の会の役割が大きいことが再確認された。

#### 表；世界 SIDS 家族の会参加グループ

---

オーストラリア(National SIDS Council of Australia)  
オーストラリア・ビクトリア州(Sudden Infant Death Research Foundation)  
ニュージーランド(New Zealand Cot Death Association)  
米国 (SIDS Alliance)  
カナダ(Canadian Foundation for the Study of Infant Death)  
オーストリア(Austrian Society for the Study of Infant Death)  
ベルギー(Maatscheppeleijki Zelel SIDS)  
デンマーク(Landfureningen Spaedbamsdod)  
フィンランド(Finnish SIDS Association)  
フランス(Native et Vivre)  
ドイツ(GEPS Germany)  
アイルランド(ISIDA)  
イタリア(Seeds for SIDS)  
ノルウェー(Norwegian SIDS Society)  
英国 (スコットランド) (Scottish Cot Death Trust)  
英国 (イングランド) (The Foundation for the Study of Infant Death)  
スウェーデン(Swedish SIDS Association)  
スイス(SIDS Schweiz)  
オランダ(Vereniging Van Ousders)  
ハンガリー(Hungarian SIDS Foundation)  
スロバキア(The Slovak Foundation for SIDS)  
チェコ(SIDS Group of the Ministry of Health)  
アルゼンチン(AMSI)  
日本(SIDS Family Association Japan)  
ジンバブエ(National SIDS Foundation)  
南アフリカ(Cot Death Foundation)  
研究代表者の参加があった国 ( 8 ヶ国 )  
ロシア、ブラジル、コスタリカ、ポーランド、スロベニア、イスラエル、エストニア、ポルトガル

---